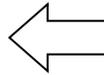


テーマ 教育の質を高めるチーム学悠館 変わる自分、変える未来。チャレンジ学悠館！

本年度の目指す生徒の姿

- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
- 自分の能力に気づき、自主的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重して他者と協働し、共に成長する生徒



取組の視点

- よりよく生きるための資源となる健やかな心と身体を育てる
- 生徒の潜在能力を引き出し、自主的・自律的な行動につなげる
- 諸活動の中で、仲間を信頼したり、貢献したりすることのできる豊かな感性を育てる
- 過去3年間の取り組みを総括し、諸活動の意味づけを再確認する
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識する

努力点	学校自己評価				学校関係者評価	
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策		
主体的に参加する学習活動	「授業を最優先する！」という生徒の態度を喚起するために、最良の学習環境を提供して単位修得の意識が高まるような支援を行う。	単位修得率が前年度(72.4%)を上回るA、同程度B、下回るC	B	B	あらゆる機会を通じて授業に出席すること、単位を取る大切さについて粘り強く指導する。	学び直しができるという利点に加えて、進路実現に向けたきめ細かな指導が行われている。また、授業改善に向けた指導力向上の意識が高まっている。
	教員が協働して生徒の潜在能力を引き出し、自主的な学びにつなげるために、「研究・公開授業」を実践するとともに、「ふり返し」を実施する。	「研究・公開授業」と「ふり返し」を実施した教員の割合が70%以上A、60%以上B、60%未満C	A			
キャリア発達・進路実現を促す活動	探究活動の充実に努めたり、生徒が主体的に「ポートフォリオ」に取り組めるようにサポートしたりするなど、「総合的な探究の時間」を円滑に実施する。	本校の教育活動に関するアンケート(教員対象)の「項目3」の達成状況の評価Aが、30%以上A、20%以上B、20%未満C	A	A	「ポートフォリオ」の電子化への対応を急ぐとともに、「総合的な探究の時間」の内容と計画を構築する。	目標を持ちにくい現代に、教師が生徒一人ひとりにじっくり向き合っていたらと感じている。
	『履修のてびき』や科目配置に工夫を施すことで、生徒の発達段階に応じた履修指導の充実を図る。	履修指導に関する生徒アンケートを実施する。進路を意識しながら、履修計画の作成ができた生徒の割合が60%以上A、50%以上B、50%未満C	A		生徒の履修希望に沿えるように講座の定員や科目配置、Ⅲ部開講科目についてさらに分析と改善を進める。	
開かれた学校、地域との連携・協働	寺子屋みらい、ボランティアスクール、ふれあいあいキャンブ、介護体験、看護体験など、地域との協働・連携・貢献活動への参加を促進する。	参加者数が前年度(123名)を上回るA、同程度B、下回るC	A	A	生徒・保護者などの参加者を増やすために、計画的かつ効果的な情報発信を継続しておこなう。	毎日、ホームページが更新され、学校の様子がよく分かる。今後も情報の発信に努めて欲しい。
	学悠館の魅力を情報発信するために、本校の「強み」に加え、目標に向かってチャレンジしている生徒の姿にもスポットライトをあてて広報する。	「強み」やチャレンジしている生徒の姿を意識して、『学校案内』やポスターの作成やHPの更新ができたA、おおむねできたB、不十分であったC	A		前向きに努力する生徒の姿や声を盛り込みながら、『学校案内』やポスターの作成、HPの更新を進める。	
体力の増進と健やかな成長	『保健だより』や掲示物を通じて保健指導を行い、生徒の健康に関する意識の高揚を図る。	生徒アンケートを実施し、「健康に留意した」と答えた生徒の割合が60%以上A、50%以上B、50%未満C	A	B	『保健だより』や掲示物を読んで健康に留意すると答えた生徒の割合が高いので、さらに工夫して啓発する。	健康に留意している生徒が多いことに驚いたが、少し運動量が不足しているように感じる。
	生徒が自発的に部活動に取り組んで目標を達成するとともに、大会やコンクールで成果を収められるように指導の充実を図る。	全国大会出場生徒数が、前年度(86名)を上回るA、前年度と同程度B、前年度を下回るC	B		多くの生徒が自発的に目標を達成して活躍できるように、引き続き指導の充実を図る。	
豊かな人間性・社会性の育成	LHRや総合学習、学校行事を通して、集団行動やコミュニケーションのとり方を学ばせ、良好な人間関係が構築できるように導く。	生徒アンケートを実施し、良好な人間関係づくりに積極的に取り組めた生徒の割合が60%以上A、50%以上B、50%未満C	A	B	生徒のより積極的な人間関係づくりにサポートするために、さまざまなプログラムを用意する。	スクールカウンセラーの活用のみならず、校内の相談体制の充実が図られていることに安心している。
	生徒や保護者が抱える課題について、情報共有やSCとの連携等を通して、組織的な支援体制の構築を図る。	SCとの連携や生徒情報交換会・ケース会議・研修会等の開催によって、成果が上がったA、組織的に支援ができたB、不十分であったC	B		相談部と年次・部・HR担任がさらに連携して情報の共有を図り、困難な立場にある生徒を支援する。	
安全安心な学校生活の提供	校内外の巡回指導やアンケート、日頃の生徒観察、声かけを実施し、危険防止、問題行動の未然防止を目指す。	巡回や声かけによって、成果が上がったA、計画的に巡回指導ができたB、不十分であったC	A	B	生徒の実態に応じた効果的な巡回・声かけを行うことにより、問題行動等の未然防止を徹底する。	先生方の生徒への接し方や指導が丁寧である。校外の生徒の様子は落ち着いていると感じている。
	快適な学校生活が送れるように生徒が校内環境を意識するとともに、「日常清掃」などで積極的に美化活動に取り組むように促す。	生徒アンケートを実施し、意欲的に校内美化に取り組めた生徒の割合が60%以上A、50%以上B、50%未満C	B		生徒が自主的に取り組める美化活動となるように改善する。日常清掃の時間帯を変更する。	